図 書 館 長 賞

「　僕にとっては意義のある４年間　」

経済学科　４年　カニカマ（ペンネーム）

自分の大学生活を振り返ってみると、すべてが図書館に集約されることに気づいた。サークルにも入らず、何かの活動をするでもなく、友達と遊ぶわけでもなかった僕は、ひたすらに暇だった。暇だったから、よく図書館を利用していた。

授業の空きコマの時間では暇をつぶしに、暑いときは涼みに、寒いときは温まりに、雨が降った時は雨宿りに、調べたいことがあったときに、たくさん利用した。こんなにも足繁く通っていたから、本を読むようになった。たまたま手に取った本が面白くて、そこからどっぷりとハマった。活字に対して抱いていた苦手意識がなくなったのは、間違いなく図書館のおかげである。

いつしか、大学に行くというより、大学の図書館へ行く気持ちで電車に乗って通学していたと思う。図書館に通って、ついでに講義を受ける、みたいな。正直、日によっては大学に行くのが億劫な時もあったので、図書館の存在はどこまでいっても僕を助けてくれた。

消極的だった僕が「選書ツアー」なんてイベントに参加したのも、図書館に通って本に出会ったおかげである。僕を助け、僕に行動力を与えてくれた図書館には感謝しかない。

このように、僕の大学生活は図書館で回っている。逆に言えば、それ以外は特にない。書くことがない。客観的に見れば、あまり褒められたものではないかもしれない。けれど、僕は実に充実した４年間だったと、確信を持って言える。
穏やかに、粛々と、毎日毎日、図書館に通い、講義を受け、家に帰り、本を読み、課題をやり、ご飯を食べて、寝て、また朝が来る。

僕は、この平和で淡々とした大学４年間をとても気に入っている。
これから社会人になり、自分に使える時間が少なくなっても、僕は空いた時間に本を読んだり、書店に行ったりするだろう。まぎれもなく、この４年で身についた楽しい生き方だ。
大学に通ってよかったと、心の底から思う。